



元気っ子通信 No.54

平成 26 年 2 月 17 日

学年最後の学期になりました。

子ども達も仲間と仲良くかかわりがもてるようになってきたなと感じます。

今までは自分の思いどおりにいかないと、かんしゃくをおこしたり、怒りだしたりと個人の勝手な行動で、せっかく楽しく遊んでいたものがぶちこわしになるなどトラブルが多かったのですが、最近では自分でぐっとがまんできる様子がみられて穏やかに学童での生活ができるようになりました。

今の子ども達は、たくさんの人の中で過ごす環境で育っていないこともあり、たとえば祖父母や兄弟姉妹や親戚、隣近所との密なかかわりが薄くなっている分、人間関係をつくりあげていくのがうまくないように見られます。

学童ではこの「人とのかかわり」を大切に考えています。友達と遊びを通していろいろな感情を出したり、抑えたりできる人間に育ってほしいと願っています。

だから、危険がともなわない限り、私達指導員はじっと見守り、必要なら言葉をかけます。自分で考え、どう行動するか、決定できるようになってほしいと思っています。親の立場としてはトラブルの中で指導員にすぐにかまってやってほしいと思うかもしれませんが、子どもが「力」をつけるためにはじっとがまんして見守ることのほうが大事です。

集団の生活の前に家庭での生活がしっかりとつくられていることが大切だと思います。食事、宿題、お風呂など様々な生活の場面に楽しい親子の会話があれば、中学、高校と成長していても子どもは何でも親に話し、相談します。子どもと充実したかかわりを「今」しているかで将来の親子関係が決まります。

ていねいにかかわるといのは、世話をしすぎるのとはちがいます。良い、悪いの判断を教える時も、しっかり親の言葉、親の考えとして伝えていって欲しいし、自分でできるようなことは時間がかかって自分でもやれるように見守ってほしいのです。

まず、家庭の生活の中での決まりごと、約束がしっかりできてからの集団生活です。

親の役割、学童の役割両方がうまく作用して子どもを成長させていくのだと信じています。

